

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

平成29年6月1日

6月号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



## 「知る」3つ(4つ)の風景

校長 笹原 秀之

A君と私の会話です。「僕のトマト、2つも実ができてきたよ。」「そう。これからどんどん大きくなっていくね。」「うん。毎日水をたっぷりあげるんだ。」「暑いから、たくさんもらえて喜んでいるね。」

その時、ふと隣の植木鉢を見ると、水があげられていない様子。水をあげるように伝えなくてはと、植木鉢を見て名前を確認しようとしたら、A君が「あっ、〇〇ちゃん、水あげてないから、僕があげよう。」と言って、ペットボトルでたっぷりあげてくれました。

私は心打たれました。A君は普段、周りの人に手助けをしてもらう事が多かった子で、自分の苗に水をしっかりあげているだけでなく、お友達のことを考えてすぐに行動できたからです。植物と一緒に子どもも成長していることを感じさせられた一瞬でした。

<動いて知る>

「Hello!」「Stand up!」「Let's practice!」「Jump five times!  
and walk walk walk!」「Run!」

1年生が、ほとんど日本語を使わずに、自然に英語での指示を聞き、Yes!とか Yeah!と応えて活動しながら英語のフレーズに慣れ、流れの中で理解して英語に親しんでいます。

「Now it's High Five Time!」「Do you remember High?」「Let's practice High!」

「Okay. 3 2 1 action!」と、また次の動きへと変わり、歩きながら友達同士で挨拶をしてハイタッチ、そしてまた挨拶をして別れる。楽しそうに取り組んでいます。英語への慣れは1年生でも人によって差異はあるものの、みんなで行っていると、頭で分かる分からないではなく、体で感じながら、先生の言いたいことも感覚的に捉えて学んでいます。

<歩いて知る>

子どもは、自分の生活の範囲や通学路周辺のことはある程度知っていても、それ以外の場所については、近場でも知識は少ない。初めて社会科を学ぶ3年生にとって、地域を巡っての発見は新鮮で、土地の様子・使われ方、人々の暮らしぶりなど多くのことに気が付きます。先日、私も3年生と一緒に地域を巡りました。この日は、白幡方面だけの地域探検でした。

「ここに森みたいのがある。神社もある。」「武蔵野線が上がってきている感じだ。」「高いマンションがたくさんあるね。」「学校に戻るには坂をたくさん上がっていくね。下の方のお家の屋根と同じ高さだ。」「畑がある。ネギが植えてある。これはジャガイモだ。」

このような気付きをまとめて地図に表すことで、地域の様子の特徴を捉えていきます。生活科の主観的な捉えから客観的な捉えへと変化し、地域を知ることが地域の一員としての自覚や地域への愛着に結びつきます。

<考えて知る>

さいたま市では、全小中学校で『いのちの支え合い』を学ぶ授業を行い、相談することの大切さやスキル、悩みやストレスへの対処法などを学びます。6年生も授業の中で、「友達の相談相手になろう」という課題で「どうしたらよいか」をグループで考えました。①相手の気落ちになってポジティブな案を考える。②真剣な態度で聞く。③安心させる。共感する。④相手が困っていたら積極的に話しかけるようにする。⑤自分の意見と相手の意見を交えて話をする。⑥相槌を打ち、優しい口調で相談に乗る。⑦適切な受け応えをする。⑧その質問に対してのよい答えを出す。(質問に対して正対するという意味)さすが6年生です。よく考えていて、相談に乗るためにどのようにしたらいいかが分かっている、それを表現することもできています。一緒に指導して下さったさわやか相談員さんからも褒めていただき、さらに付け足すとすれば、「解決方法は友達(悩んでいる人)に決めてもらう。」「秘密を守る。」ことも大事だと教えていただきました。学校では、様々な学習が展開されています。

